

前期基本計画に関わる基本構想審議会の意見概要と前期基本計画への反映状況

(答申案に対する意見 R5.3.6～)

(R5.3.14)

区分	行政分野	概要	前期基本計画（素案）
基本目標 1 美しい自然環境を守り、ク リエイタする まち	1 新価値創 出・起業支援	P11 成果指標「起業支援件数」 目標設定の考え方は説明いただきましたが、あえて現 値より少なく設定する必要があるのでしょうか。せめて現 状と同水準としてはいかがでしょうか。	目標値 30 件 (R5～9) は、目標値は現状と同水準として 設定しております。 なお、現状値の数値 (H30～R4 の 5 年間) は、新型コロナ の要因などで、地方への移住・起業等の機運が高まるなど、 例年以上の実績となっているほか、年により、大幅な増減が ございます。(令和 3 年度: 9 件、令和 4 年度: 4 件)。 コロナ後においても、現状値の水準を維持していくことと し、「30 件」と設定しました。
	2 自然環境・ 景観・自然エネ ルギー・利雪・ 楽雪・土地利用	(7) 地域特性を活かした市土利 用 P15 国土利用計画と整合を図って記述を見直していただきま したが、基本構想で謳う「多極ネットワーク型コンパクト シティの構築」との整合に関しては、「多極ネットワーク 型」の部分は反映されていませんが、人口減少時代を見据え て避けて通れない「コンパクトシティ構築」の視点が十分 ではないように思います。	基本構想における基本目標 5 の概要に掲げた「ネットワー クコンパクトシティの構築」は、基本構想審議会から答申を受 けた後、市における成案の検討の中で、 ①社会潮流に関する用語でなく、分かりづらい専門的な用語で ある、 ②取組の概要において、この用語の前半に記載した「持続可能 な都市構造と効率的な公共交通体系により、」が、この用語の 意味するものであり、説明が重複している、 ③「コンパクトシティ」については、市民へ十分な説明が必要 で、個別計画などで取り扱うべき用語である などの理由により、下記のとおり削除させていただきました。 基本目標 5 安全で安心して暮らしを愉しめるまち 「持続可能な都市構造と効率的で効果的な公共交通体系によ り、 多極ネットワーク型コンパクトシティを構築し、 生活環境 の維持・向上を図ります。」 ※「効果的な」は追加。 なお、「人口減少時代を見据えた」というご指摘について は、下記のとおり修正します。

区分	行政分野	概要	前期基本計画（素案）
			(修正案 修正箇所は下線で表示) ●北陸新幹線飯山駅周辺に集積する商業や医療、交通等の都市機能維持と充実を図るとともに集落とのネットワークの強化により、<u>人口減少・少子高齢化に対応し</u>、<u>市全体の利便性向上と賑わい拡大のための市土利用を図ります</u>。
	3 観光・交流・関係人口	(2) 魅力ある観光プログラムの構築 P18 最終項目の「海外からの観光客を呼び込みます」については、インバウンドという表現で良いのではないかと。 ※基本構想素案の課題には「インバウンド」と表現されている。	以下のとおり、修正します。 (修正前) 本市の魅力を世界へ発信するとともに、観光施設のユニバーサルデザイン化を行い、海外からの観光客を呼び込みます。 (修正後) 本市の魅力を世界へ発信するとともに、観光施設のユニバーサルデザイン化を<u>推進するなど、インバウンドを呼び込みます</u>。
基本目標 4 一人ひとりが 生きがいをも って挑戦でき るまち	1 市民協働・ダイバーシティ	P43 成果指標「審議会等委員の女性参画率」 第4次男女共同参画基本計画（R2～R6）の目標値 35%以上を基準とした、との説明をいただいておりますが、 ①同計画の目標年次は R6 であり前期基本計画の目標年次が R9 であること ②同計画の目標値は 35%以上であることの2点を考慮すると、少なくとも 35%以上、可能な限り 50%に近い目標値を設定するべきではないのでしょうか。	目標設定に掲げている審議会の女性参画率の算出の根拠は、対象となる各審議会における「女性委員の合計人数／委員合計人数」で算出しております。 各審議会は、その目的達成を目指し、関係する様々な団体から構成され、当該団体としての考えを反映するため、委員は「長」などの役職で定められている場合が多い状況です。 つきましては、多様な視点での議論は重要でございですが、審議会の目的を達成するという視点から、女性の参画は、「数」ではなく、「適材適所で女性の視点が加わる」ことが重要だと考えております。 しかしながら、当市の審議会の女性参画率は 20%台であり、多様な視点での議論という観点からは、低い状況であるため、第6次総合計画の達成目標の数値については、男女共同参画基本計画で定めた令和6年度の目標数値「35%以上」と「現状値（23.7%（R3）」を踏まえ、まずは、男女共同参画基本計画に掲げた 35%以上を目指してまいりたいと考えております。

(5)循環型の地域づくり

- 「長野版エシカル消費」行動等、循環型社会を意識した消費行動や農業用廃プラスチックや農薬、適正処理が困難な物の処理方法の周知等、ゴミの減量と廃棄物の適正処理に取り組めます。
- 従来の3Rに加え、プラスチック製品等の代替素材への転換も含めた4Rを推進するほか、食品ロス削減等、更なるごみ減量とリサイクルの見える化を推進します。
- 市および不法投棄監視連絡員等によるパトロールに加え、常習場所への監視カメラの設置により常時監視体制の充実を図るなど、不法投棄対策を強化します。

(6)環境学習、環境保全活動の推進

- 環境に関する情報を積極的に発信し、環境保全の意識を共有するとともに、環境について学ぶ取組を推進します。
- 環境保全活動の推進に向けた地域や団体、企業の活動を支援します。

(7)地域特性を活かした市土利用

- 北陸新幹線飯山駅周辺に集積する商業や医療、交通等の都市機能維持と充実を図るとともに集落とのネットワークの強化により、**人口減少・少子高齢化に対応し**、市全体の利便性向上と賑わい拡大のための市土利用を図ります。
- 災害や雪に強く、安全・安心で暮らし続けられる市土利用を図ります。
- 里山が有する自然環境や景観について、保全・再生・活用のバランスのとれた市土利用を図ります。
- 農業・林業・商業・工業・環境・観光・健康・教育・居住等、様々な行政分野との連携と融合によって市土の価値を高め、土地活用を誘発することなどにより、空き地や低未利用地等の解消を図ります。
- 市土の70%以上を占める豊富な森林と農地の多面的機能の活用を図るほか、道路、河川と共に多様な主体による市土利用・管理を図ります。

施策

(1) 広域観光の推進

- 信越9市町村や関係機関と連携し、信越自然郷エリアの地域資源を活用したプロモーションを展開するなど広域観光を推進します。
- 千曲川流域の市町村・国・県・各種団体・企業が連携し、千曲川を活かした地域の賑わい創出を目指します。

(2) 魅力ある観光プログラムの構築

- 美しい自然環境・アウトドアスポーツ・文化・芸術・歴史・伝統・風土・風習等を最大限活用し、観光振興を図ります。
- 観光地の魅力向上に向け、関連団体の活動への支援等を通じ、多様なホスピタリティ、温かみのある受入れ体制づくりを促進します。
- 市内各観光拠点の活性化を支援し、通年型・滞在型等、新たな時代のニーズに対応した魅力ある多様な観光プログラムを構築・提供します。
- 自然環境を活かしたサイクルツーリズムを推進するとともに、E-BIKE の聖地を目指します。また、列車内に自転車を持ち込むことができるサイクルトレインの早期実現に向け、飯山線沿線地域活性化協議会を通じた活動等を進めます。
- 本市の魅力を世界へ発信するとともに、観光施設のユニバーサルデザイン化を推進するなどインバウンドを呼び込みます。

(3) 観光資源の磨き上げ

- 農業と観光の拠点施設である道の駅「花の駅 千曲川」の整備・拡充を進めるとともに民間事業者や各種団体と連携し、更なる魅力向上を図ります。
- 地域の観光資源を磨き、地域のブランド化や地域に利益をもたらす観光コンテンツにつなげます。

(4) 多様な交流・関係人口創出

- 姉妹都市、観光交流都市、友好都市および災害時応援協定都市との交流を促進するとともに、地域活性化やイベント開催支援のため、市民、学生、ボランティア等との多様な交流促進を図ります。
- ふるさと納税制度を活用し、本市との継続的なつながりをもった関係人口の創出・増加を図ります。
- 都市部における副業・兼業を希望する人材と本市の課題解決をマッチングする仕組みを構築し、オンラインを含めた関係人口による地域課題の解決を図ります。